

KSKS

No. 129

24. 2. 27

# ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会  
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5  
TEL/FAX 0742-41-6039  
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円  
年間 300円

◆法人からの報告  
「新法人理念・基本方針・行動指針決定」  
理事 六十谷 尚美 … 1

◆Reports  
◇天理市でなんでも相談会・記念講演 … 2  
◇生活支援コーディネーター@天理市 … 3

◆Reports  
さわやぎ … 3  
地活歩っと/相談歩っと … 4  
就労こもれび/生訓こもれび … 5  
D-PORT … 6

◆Thanks  
後援会費納入者 … 6

## 新 法人理念・基本方針・行動指針 決定 ～現状に合わせわかりやすく～



社会福祉法人寧楽ゆいの会は、令和5年12月16日の理事会で法人理念と職員行動指針を改め、新たに理念、基本方針、行動指針を定めました。

これまでの理念・指針はそれぞれ平成14年と19年に作ったもので、社会資源がまだ少なかった時代、10人ほどの職員はすべて常勤の精神保健福祉士でした。現在は常勤29人、非常勤22人で、精神保健福祉士の他、事務、調理、ヘルパー、看護師など、専門分野も様々です。

改定のきっかけは、1年半前の職員研修でした。法人の将来像、自らの仕事の現在や未来など自由に語る場があり、法人設立時に掲げた理念や行動指針についても意見交換しました。

当時の思いを知る職員は少なく、その後入職した職員が大半でしたが、「理念や指針は変えない、同じ想いである」との意見でした。内容の大きな変更はせず、簡潔でわかりやすい表現となるように改訂し、理念、行動指針に基本方針が加わりました。

庄野理事長は、「地域生活支援に関する事業の状況が、法人設立当時と比べて大きく変わっている中

### 理念

◆寧楽ゆいの会は、だれもが自分らしく  
安心して暮らせる まちづくりをすすめます

### 基本方針

◆利用者の「意思」と「希望」を尊重し、その実現を支援します  
◆法人内外の関係者や関係機関と連携します  
◆地域社会に情報発信や、政策の提言を行ないます

### 行動指針

私たちは  
◆それぞれの業務の専門性や質の向上に努めます  
◆自らの健康保持に努めます  
◆法人及び各事業運営について主体的に参画します  
(令和5年12月16日)

だからこそ私たちの活動の軸になる理念を再確認することが必要だった」と話します。(六十谷尚美)

Reports

# 講演会&なんでも相談会 in天理 相談して暮らしやすいまちに

けんりようご・ねっと奈良(※)主催の「なんでも相談会」が1月27日(土)に天理市民会館(やまのべホール)で行なわれました。

2020年から行なわれている同相談会は第5回を迎えます。これまで奈良市で開催されてきましたが、今回初めての奈良市外の開催です。相談会には天理市・天理市社会福祉協議会の後援もありました。

午前には『誰もが過ごしやすいまちづくり』をテーマに、天理市出身のお笑い芸人・youtuberとして活躍している、せやろがいおじさん(榎本耕助さん)の講演と並河健市長との対談会が行なわれ、会場には約100人が集まりました。

※奈良県内の弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士、精神保健福祉士、社会保険労務士、居住支援者、介護支援専門員など多種多様な専門職が勉強会等を通じて権利擁護のための連携を深めているグループ



## ◆誰もが暮らしやすいまちづくりとは？

せやろがいおじさんから「困りごとがあったら相談し、助け合える関係が作れる孤立や孤独のないまちづくり」を一つの答えとして、孤立・孤独についての問題提起がされました。孤独は心や身体への影響だけでなく社会にも影響があり、孤独による経済損失は30兆円にもなると考えられています。

「家族以外の人との交流がない人」の国際比較ではOECD加盟国20カ国の中で日本が15.3%と1番割合が高く、相対的貧困率16.1%と合わせて考えると日本はお金も友人もないという悲惨な状態。2021年の政府による調査で「孤独感がある」と回答した人は4割。人と人との関係が希薄になってきている理由として、核家族化が進み親族のつながりが希薄になっていること、非正規雇用が増え職場での繋がりも切れてしまうことなどがあげられました。また、社会問題となっているヤングケアラーや虐待についても孤独や孤立が背景にあり、誰にも相談できない、誰に相談していいかわからない状況があると話しますが、「ここに相談すれば全て解決、は難しい。専門家同士が連帯して1つの事案に取り組むことが必要ではないか」と話されました。

## ◆市長との対談

対談は、弁護士の佐々木育子さんのコーディネートのもと進められました。前半の話を受けて、主に子育ての支援・生活困窮者支援・身寄りのない



▶ 並河市長(右)とせやろがいおじさん

人の支援・どんな工夫をすれば社会が維持できるか等について話されました。市長からはそれぞれの問題について天理市の取り組みやその思い、目指す方向などが語られました。その取り組みを聞く中で、せやろがいおじさんは「『相談したら助けてくれる場がある』というだけで安心。何か漠然とした不安に対しての処方箋になると一市民として感じた。けんりようご・ねっとの繋がりも広がり、専門職の連携が深まって相談体制が整っていったら」と話し、市長からは「地域で具体的に支え合っていくために行政も市民の皆さん自身も考え方を変えていくことも必要。支えられた人が支える側になることもある。相談して楽になった経験をもってもらうことが大事だと思う」と話しました。

## ◆なんでも相談会では25件の相談

相談会は、受付で聞き取った相談内容に応じて担当する専門職を決め、チームを組みます。様々な視点で話が聴けるよう多分野の専門職が2~5人で対応しました。予備も含めて全12個あった相談ブースは一時満室になるほど盛況でした。



今回、市内外から専門職が約90人集まりました。初めて参加する人も多く、待機時には専門職同士で日頃の困りごとの相談や情報交換が活発に行なわれ、新たな繋がりが作られていました。次回もまた別の市での開催が企画される予定で、県内でのつながりの広がりが期待されます。

(河田友見子)

◀ 相談内容に応じて同じ専門職も複数人で

Reports

# 多様な社会資源で支える橋渡し役 生活支援コーディネーターって？

高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って生活できる地域・体制づくりのために、“生活支援コーディネーター”（以下SC）が活動しています。天理市では4法人に委託されています。そのうちの1人、西浦正典さん（社会福祉法人大和清寿会）に聞きました。主な活動内容は、①地域住民が気軽に集まれる場の支援 ②地域生活の困りごとの解決方法を住民と一緒に考えたり、担い手とのマッチングです。

①では、サロンやクラブ活動（体操や脳トレなど）の情報収集を行ない、通える場について相談があった時に情報提供をしたり、冊子にまとめて市内の支援機関に配布しています。地域住民から「こんな活動がしたい!」との声を受けて、一緒に新たな活動場所を作ります。

②では、地域住民の生活の困りごとを整理し、課題解決のために現在ある資源でどこまで支援できるかを考えます。必要に応じてボランティアの紹介や民間サービスの活用、関係機関との連携を行ないます。ボランティアも様々ですが、天理市では高齢者の軽微な生活の困りごとに対する生活支援に対応する「天理市生活支援サポーター（愛称てんさぼ）」を養成し、SCが調整役を担い地域に派遣

しています。

これまで、居室の掃除・草引き・話し相手などに対応しました。“てんさぼ”は現在、団体での登録制で、医療・福祉職の現役世代やOB、天理教関係者、地域のボランティア団体など18団体が登録

しています。西浦さんは「“てんさぼ”の活動を通して支援することもされることもある、“支え合いの関係”を目指したい。“てんさぼ”の中には高齢者や障がいを抱える方もいるが、支援に入ること社会参加に繋がれば」と話します。

地域の課題に支援者一人ができることには限界があります。SCは高齢者分野に留まらず、児童・障がい分野を含む様々な関係機関や人とつながり、地域住民と当事者が時に支え、時に支えられる“多様な支え合い”を目指して活動しています。

（糀谷優）



◀ 介護予防の取り組みをまとめた冊子をつくっています

## さわやぎ

# 改めて考える災害への備え

1月15日に避難訓練を行ないました。元日に能登半島地震が起き、地震の怖さを改めて感じた人も多く、いつも以上に“自分のこと”として取り組みました。19日にはきょうされん主催の「きょうされん未来カフェ～防災への備え～」にも参加しました。オンラインだったため、来所しているメンバーは食事作りなど活動に参加しながらでも見られました。

未来カフェでは、実際に能登半島地震の支援に入った機関の話や東日本大震災や熊本地震を経験した事業所のメンバーから体験談を聞くことができました。

地震発生以降、連日多くのニュースや報告などを目にし、スタッフ間でもさわやぎの防災対策について、「能登のような地震が起きた時に作成したBCPは実際の場面で活用できるのか」「備蓄や備品などの災害の備えは今のほうがよいのか」など、改めて考えています。

想像できないことも多いですが、今からできることをしていくことにしました。メンバーの中には、備蓄や緊急時の持ち出し品の必要性やその内容を知っていても、どこで買えるのかわからず用意していない人もいるということが分かりました。近々、希望するメンバーと一緒に買いに行く機会を作ります。災害を防ぐことは難しいですが、減災できるよう準備をしていくつもりです。

（中島美保）



▶ 自治会で指定されている一時集合場所（左）の確認も